

看護学専攻修士課程の授業科目、単位および履修方法

1 <修士論文コース>

1) 履修方法

- (1) 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計30単位以上を修得しなければならない。
- (2) 学生は、専門科目のうちから一つの領域を選定し、これをその学生の専門領域とする。
- (3) 学生は、前項の専門領域に係る特別研究担当者を指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けるものとする。
- (4) 30単位は、次の区分により修得しなければならない。
 - ① 専門科目：指導教員が指定する授業科目のうちから講義4単位、演習4単位
 - ② 研究科目：6単位
 - ③ 共通科目：必修科目4単位、選択科目のうちから10単位以上、計14単位以上
 - ④ 専門科目又は共通科目のうちから2単位以上

*養護教諭専修免許状取得を希望する場合

養護教諭一種免許状を有する者は、所定の必要な単位を修得すると養護教諭専修免許状を取得することができる。

2) カリキュラムの概要

授業科目一覧

	科目名	担当者	学年・期別 単位	必修 区分	授業概要
共通科目	看護研究	教授 緒方久美子 准教授 長谷川珠代	1・前 2	必修	看護実践において、専門的知識・技術の向上や看護を開発するための実践の場における研究活動に必要な分野を超えた共通する知識、基本的な研究方法とそのプロセス、研究者としての姿勢、倫理的配慮について教授する。研究論文のクリティークから研究の信頼性、妥当性の評価等についても学習する。また、看護研究とその成果の活用が、高度実践看護師にとっても必須であることを理解する。
	看護倫理	准教授 坂梨 左織 准教授 大田 博一 准教授 須長 幸	1・後 2	必修	看護実践の様々な場で看護職が直面する倫理的な問題・葛藤を明らかにし、患者・家族・医療チーム間での倫理的調整を行うための基礎的知識を習得する。倫理の哲学的背景、及び医療・看護倫理の歴史的変遷と主要な概念を理解する。さらに、倫理的な問題を分析し調整するための方法論を学習し、臨床看護の実践の中で遭遇する倫理的問題について分析し、調整していくための基礎的能力を養う。教員の看護職としての実務および看護基礎教育経験を活かし、実践、教育、研究に携わる看護者がその機能を果たすために必要な知識と方法について講義する。
	英語文献講読	教授 大倉 義文	1・後 2	選択	医療看護分野の先行研究や最新の研究成果に関する情報を収集・理解し、英語文献の検索方法や医学系雑誌の読解をとらえて英語原著論文を正確に読むための必要な知識・技術や論文作成の基本について学ぶ。また和文論文作成の際に求められる英文抄録の書き方を教授する。
	保健医療福祉政策論	教授 木村 裕美 非常勤講師 久本 貴志	1・後 2	選択	日本の歴史的変遷から保健医療福祉システムの成立を社会保障関連法規でとらえ、保健医療福祉政策の動向や現状を分析する。
	人間発達論	講師 黒髪 恵 教授 松永 邦裕	1・前 2	選択	人間を生涯にわたり発達する存在としてとらえ、多角的学際的に発達を学ぶ。本講義では人間の発達を認知・情動・社会性という視点で人の発達に関する理論を用いて各発達段階の様相と人間関係について考察する。

	科目名	担当者	学年・期別 単位	必選 区分	授業概要
共通科目	医療統計学	教授 木村 裕美 教授 有馬 久富 講師 今任 拓也	1・後 2	選択	自己の研究課題について解析するために必要な医療統計学の基礎を学び、研究の妥当性や必要性、治療看護の効果、疫学研究から因果関係律の考え方を探求する。
	看護管理論	教授 末次 典恵	1・前 2	選択	管理に関する基礎理論の変遷を踏まえ、組織論、人的資源育成論、看護専門職に関する知見を概説し、看護管理者に求められる役割と責務や専門看護師に必要な看護管理を考察する。さらに、医療・看護を取り巻く現状から、看護サービスを提供するために求められるマネジメントについて臨床のトップマネジメントの実際を通して学ぶ。
	フィジカルアセスメント	准教授 大田 博 教授 緒方久美子 教授 宮城由美子 准教授 坂梨 左織 講師 松本祐佳里 教授 秋吉浩三郎 教授 石倉 宏恭 准教授 岩朝 光利 准教授 喜多村泰輔 講師 武岡 宏明 非常勤講師 山内 靖	1・前 2	選択	理論、演習を通して各領域におけるフィジカルアセスメント技術を学ぶ。複雑な健康問題をもった対象の身体状況について系統的に診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について教授する。
	臨床薬理学	教授 神村 英利 教授 今給黎 修 教授 岩崎 克典 教授 遠城寺宗近 教授 大江 賢治 教授 緒方憲太郎 教授 桂林秀太郎 教授 松尾 宏一 教授 三島 健一 教授 中島 充代	1・前 2	選択	効果的な薬物治療のための看護介入には、薬物療法の基礎と臨床を理解することが必須である。この科目では緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、生活調整、回復力の促進、対象の服薬管理能力の向上を図り、対象の負担が少なく、より効果的な薬物治療を行うための知識と看護技術を教授する。
	病態生理学	教授 佐久間良子 講師 本田 啓 非常勤講師 井上 隆司	1・前 2	選択	対象の全身にわたる病態生理学的変化についての確な解釈および臨床看護判断を行い、より効果的かつ高度な看護実践を提供するために必要な知識、技術を教授する。
	コンサルテーション論	教授 中島 充代 講師 松本祐佳里 助教 池田 智	1・前 2	選択	実践的な問題解決を支援するコンサルテーションについて必要な知識を教授する。また、医療や学校チームにおけるコンサルテーションの役割と機能について文献や精神看護専門看護師の資格を有する実践例などから検討する。
	看護政策論	教授 宮城由美子 准教授 大田 博	1・後 2	選択	保健医療福祉政策の基本的構造、政策決定過程を学び、看護専門職が制度・政策にどのようなかわるべきか、そこで担うべき看護の役割とは何か、また、どのように看護活動に反映させていくかなど、高度実践看護師としてヘルスケア政策への働きかけを学習し、政策参画・提言への自己の見解を示すことができる。

		科目名	担当者	学年・期別 単位	必選 区分	授業概要
共通科目		看護教育論	教授 末次 典恵	1・後 2	選択	看護教育の歴史的変遷、日本における教育制度、関係法規について学び、看護基礎教育ならびに看護継続教育の現状と課題を検討し、問題解決に向けた方法を考察する。また専門看護師、看護教員、臨床で教育の役割を担う看護者が、各々の領域において教育的機能を果たすために必要な基礎的知識や技術を学び、模擬授業を実施する。
		看護理論	准教授 坂梨 左織 准教授 大田 博	1・後 2	選択	看護理論を考察し、批判的に吟味することによって、看護実践・教育・研究を価値づけ、理論と関連させながら効果的に活用することを目指す。主な看護理論について体系的に理解し、それぞれの理論の特徴と適用の限界について学ぶ。さらに、看護理論発展の歴史と今後の発展の方向性を概観し、分析・クリティークの視点を用いて実践事例について考察・検討する。教員の看護職としての実務および看護基礎教育経験を活かし、実践、教育、研究に携わる看護者がその機能を果たすために必要な知識と方法について講義する。
専門科目	母子健康支援領域	母子健康支援論Ⅰ	教授 佐久間良子 教授 小柳 康子 講師 藤木久美子	1・前 2	選択	母子保健関連指標や統計の動向を踏まえて、近年の母子保健医療の現状や課題への理解を深める。また母子の健康や健全な成長・発達に影響を及ぼす食生活と栄養、社会環境と家庭環境、集団保健の重要性について理解する。さらに地域母子保健活動や医療現場での課題解決方法を進めるための実践的な内容について検討する。
		母子健康支援論Ⅱ	教授 宮城由美子 講師 松本祐佳里	1・後 2	選択	母子の健康を成長発達、健康、家族・社会環境の観点から概観し、母性・小児の健康課題を明らかにする。母親と子どもの健康に関する課題を分析し、この健康課題に向けた具体的なケア方法およびケアの開発を検討する。また、先行研究や事例検討を通して、母性と小児に関わる看護実践の構造を多面的に捉える。
		子どもの発達とメンタルヘルス	講師 松本祐佳里 教授 宮城由美子	1・前 2	選択	小児看護学の視点から、様々な健康レベルや健康課題を抱えた子どもと家族を理解するために活用できる理論と援助について理解を深める。また、精神看護学の視点から、子どもの自尊感情の低さからくるメンタルヘルスの課題に対して、他職種と協働して支援する方法を探究する。
		学校保健特論	教授 小柳 康子	1・後 2	選択	児童生徒の現代的な健康課題を解決するためには、学校保健活動の組織的推進が求められる。そのあり方や展開方法をマネジメント理論や実践例の分析を通して理解する。
		母子健康支援論演習	教授 小柳 康子 教授 宮城由美子 教授 佐久間良子 講師 松本祐佳里	1・通 4	選択	母子看護領域における関心あるテーマについて、国内外の研究論文を講読し、最新の知見や研究方法に関する考察をする。こどもと家族の看護における課題を探究し、研究疑問を明確化する。

		科目名	担当者	学年・期別 単位	必選 区分	授業概要
専 門 科 目	地域健康支援領域	地域健康支援論Ⅰ	教 授 江藤 真紀 准教授 長谷川珠代	1・前 2	選択	地域に暮らすあらゆる健康レベル、あらゆる発達段階の住民個々の健康支援について、その課題を探究し、解決策を検討する。
		地域健康支援論Ⅱ	准教授 長谷川珠代 教 授 江藤 真紀	1・後 2	選択	地域社会の健康課題について住民主体の観点から検討し、その支援方法としての地域包括ケアシステム構築を探究する。
		地域健康支援論演習	教 授 江藤 真紀	1・通 4	選択	地域看護学の向上と発展に貢献できるように、関心領域において自らの研究課題と研究方法について実践的視点から明確にする。
	看護教育・管理領域	看護教育・管理方法論Ⅰ	教 授 末次 典恵	1・前 2	選択	看護基礎教育の歴史的変遷や看護継続教育において基本となる知識や生涯学習・成人学習の在り方に関する理解を深め、学生や看護職者の発達支援の方法を吟味する。今日の教育現象や看護実践の場における教育的問題の検討から研究や看護教育実践の課題解決のための方法論を探究する。
		看護教育・管理方法論Ⅱ	教 授 末次 典恵	1・後 2	選択	看護及び教育の場におけるリスク・マネジメント、意思決定、組織風土・組織文化、目標管理、顧客満足、組織倫理、キャリア開発論などに関する文献検討・グループワークを通して、実践現場の現象と理論を理解し課題解決のための方法論を探究する。
		看護教育・管理論演習	教 授 末次 典恵	1・通 4	選択	看護教育・管理学領域のテーマに関する国内外の研究論文を検討し、最新の研究テーマや知見、研究方法について学び、自己の教育実践や管理実践の省察を含めて研究課題について探究する。
	成人療養支援領域	成人療養支援特論 A	教 授 緒方久美子 教 授 大倉 義文 准教授 岩永 和代 准教授 浦 綾子	1・通 4	選択	成人期以降に、生活習慣病やがんといった慢性の経過をたどる健康問題を有する対象者、および終末期の健康段階にある対象者とその家族に対し、Quality of Life (QOL) の維持・向上を目指す療養を支援するために、その基礎となる概念や理論、最新の知識を身につける。国内外の文献レビューおよびクリティークを通して、慢性期・終末期に関する研究課題と課題解決に向けた方法論を探究する。
		成人療養支援特論 B	教 授 緒方久美子 准教授 岩永 和代 准教授 浦 綾子	1・通 4	選択	成人期以降に、様々な原因・要因により健康状態に急激な変化をきたした対象とその家族への看護の基盤となる考え方を理解し、エビデンスを探究する。具体的には、緊急手術や集中治療など、高侵襲の治療を必要とする対象者とその家族への、急性期から終末期に至るまでの看護に関する主要な概念や理論、最新の知見を学び、臨床看護への適用を検討する。国内外の文献レビューおよびクリティークを通して、自己の研究課題を明確にする。
		成人療養支援論演習	教 授 緒方久美子 准教授 岩永 和代 准教授 浦 綾子	1・通 4	選択	様々な健康問題をもつ対象やその家族への看護や教育的支援について学習を深め、文献検討やフィールドワークを通して自己の研究課題や研究デザインを明確にする。また、系統的な研究プロセスによって得られた成果を発表する。

		科目名	担当者	学年・期別 単位	必選 区分	授業概要
専 門 科 目	高 齢 者 療 養 支 援 領 域	高齢者療養支援論Ⅰ	教 授 木村 裕美 教 授 榛 直美 准教授 有田 久美	1・前 2	選択	わが国の高齢社会における課題や老年看護の学問的変遷を理解したうえで、高齢者の特徴や高齢者のQOL、健康生活、高齢者を取り巻く家族について理解する。また、高齢者ケアを実践するための理論や倫理的課題について検討し、高齢者ケアにおける基礎的能力を身につける。
		高齢者療養支援論Ⅱ	教 授 榛 直美 教 授 木村 裕美 准教授 有田 久美	1・後 2	選択	高齢者とその家族を取り巻く保健、医療福祉のシステムについて学び、そこでの看護師の役割について考える。また、文献検討を通して高齢者とその家族へ看護を提供するために必要な看護介入について探究する。
		高齢者療養支援論演習	教 授 木村 裕美 教 授 榛 直美 准教授 有田 久美	1・通 4	選択	高齢者看護領域に関する国内外の論文を詳読し、最新の研究テーマや知見、研究方法、実践活動と理論とを統合した研究課題について学ぶ。
	精 神 健 康 支 援 領 域	精神健康支援論Ⅰ	教 授 中島 充代 講 師 黒髪 恵	1・前 2	選択	メンタルヘルスに関連する多様な概念や理論を統合させ、看護の対象となる人々とコミュニティを多面的にとらえ、現状と課題を分析する。また、メンタルヘルス増進に向けた支援の方法を理解し、検討する。
		精神健康支援論Ⅱ	講 師 黒髪 恵 教 授 中島 充代	1・後 2	選択	ストレングスとリカバリーの概念、認知行動理論や精神分析理論などを活用し精神障がいを持つ人たちが社会で生活するための支援を検討する。また文献検討を通して、精神障害を持つ人とその家族への看護介入、精神領域における地域包括支援システムの実践について探求する。
		精神健康支援論演習	教 授 中島 充代 講 師 黒髪 恵	1・通 4	選択	精神健康支援領域において関心のあるテーマについて、自らの研究課題と研究方法を実践的視点から明確にする。

3) 研究指導教員一覧

	科目名	指導教員	学年・期別 単位	内 線 番 号 ア カ ウ ン ト	研究領域
研 究 科 目	母子健康支援論 特 別 研 究	教 授 佐久間良子	2・通 6	4364 yoshiko	母子健康支援領域における、周産期にある母子とその家族、および女性のライフサイクル全般にわたる健康課題を分析・考察し、より健康的な生活支援を目指すケア実践の探求に関する研究指導を行う。
	母子健康支援論 特 別 研 究	教 授 小柳 康子 〔※令和6年度は募集を 行いません。〕	2・通 6	4374 ykoyanagi	母子健康支援領域における児童生徒の健康課題について、身体的・心理的・社会的側面から多角的にアプローチし、研究課題を探求できるよう支援する。
	地域健康支援論 特 別 研 究	教 授 江藤 真紀	2・通 6	4379 m.eto.fe	住民の健康問題を科学的視点で分析する。根拠に基づき、QOLの向上を目指した支援方法や地域の健康増進システム開発等に関する研究指導を行う
	看護教育・管理論 特 別 研 究	教 授 末次 典恵	2・通 6	4378 n.suetsugu.er	看護学教育や看護師の人材育成、看護管理の高度な実践援助における看護学生及び看護職者の発達支援に関する教授・学習方法、学習組織、キャリア開発に関する研究指導を行なう。
	成人療養支援論 特 別 研 究	教 授 緒方久美子	2・通 6	4373 kuogata	成人期以降に様々な健康障害により生命の危機状況にある対象、在宅にて慢性の経過をたどる対象のQuality of Lifeの向上を目指すための身体的・心理的・社会的・教育的支援およびその介護家族への支援に加え、それらの対象を看護する看護師への教育的支援を課題とする研究指導を行う。
	高齢者療養支援論 特 別 研 究	教 授 木村 裕美	2・通 6	4375 kimurah	人口の約3割を占める高齢者の健康維持は重要であり、療養をしながら生活の中に自己実現を目指すことは生きがいであるといえる。健康問題をもつ高齢者とその家族を多角的に捉え、社会における課題を明らかにし、寄与する研究課題に取り組む支援を行う。
	高齢者療養支援論 特 別 研 究	教 授 櫛 直美	2・通 6	4365 n.ichiki.oo	複雑かつ多様な高齢者とその家族が質の高い生活を送ることができるよう必要な概念や諸理論を用いて課題解決のための基礎的研究力を育成する。また老年看護の高度実践者としての役割と機能を探求する実践的研究においても支援を行っていく。
	精神健康支援論 特 別 研 究	教 授 中島 充代	2・通 6	4383 mnakashima	精神健康支援領域における看護の対象となる人々の健康課題を分析し、精神的な健康支援の基盤となる研究課題を探求できるよう支援する。

* 福岡大学医学部 代表電話番号 (092) 801-1011

メールアドレスは、アカウント@adm.fukuoka-u.ac.jp になります。

2＜高度実践看護師コース＞

1) 履修方法

- (1) 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計40単位以上を修得しなければならない。
- (2) 学生は、研究科目の課題研究の担当者を指導教員とし、授業科目の選択、実習、課題研究の作成、その他研究一般について、その指導を受けるものとする。
- (3) 40単位は、次の区分により修得しなければならない。
 - ① 専門科目：講義8単位、演習6単位及び実習10単位
 - ② 研究科目：2単位
 - ③ 共通科目：必修科目10単位、選択必修科目のうちから4単位以上、計14単位以上

2) カリキュラムの概要

授業科目一覧

	科目名	担当者	学年・期別 単位	必修 区分	授業概要
共通 科目	看護研究	修士論文コース (8～10頁) 参照	1・前 2	必修	修士論文コース(8～10頁) 参照
	看護倫理		1・後 2	必修	
	フィジカルアセスメント		1・前 2	必修	
	臨床薬理学		1・前 2	必修	
	病態生理学		1・前 2	必修	
	看護理論		1・後 2	選択 必修	
	看護管理論		1・前 2	選択 必修	
	コンサルテーション論		1・前 2	選択 必修	
	看護政策論		1・後 2	選択 必修	
	看護教育論		1・後 2	選択 必修	
	英語文献講読		1・後 2	選択	
	人間発達論		1・前 2	選択	
	医療統計学		1・後 2	選択	

		科目名	担当者	学年・期別 単位	必修 区分	授業概要
専 門 科 目	ク リ テ ィ カ ル ケ ア 看 護 領 域	クリティカルケア 看 護 理 論	教 授 緒方久美子 准教授 大田 博 准教授 坂梨 左織	1・前 2	必修	クリティカル状況にある患者と家族に関連する概念・理論を理解し、衝撃的な体験や持続するストレスなど人間の反応に対しての専門的な看護の役割・機能と看護援助の実践について教授する。
		クリティカルケア 病 態 生 理 学	教 授 緒方久美子 准教授 大田 博 教 授 秋吉浩三郎 教 授 石倉 宏恭 准教授 岩朝 光利 講 師 仲村 佳彦 講 師 桑野 孝志 非常勤講師 山内 靖	1・前 2	必修	クリティカル状況にある患者の身体侵襲に対する生体反応、代謝・病態生理と治療方法を理解し、患者の全身状態の管理に必要な身体的情報の観察とアセスメントするための基礎的知識を教授する。
		クリティカルケア 急 性 ・ 重 症 患 者 管 理 論	准教授 大田 博 教 授 緒方久美子 准教授 有田 久美 教 授 秋吉浩三郎 教 授 石倉 宏恭 教 授 久保 真一 准教授 岩朝 光利 准教授 喜多村泰輔 准教授 重松 研二 講 師 仲村 佳彦 講 師 桑野 孝志	1・前 2	必修	クリティカル状況にある患者の全身管理を適切に行うために、脳循環管理、循環管理、呼吸管理、体液管理、感染管理の方法と用いられる医療機器の取り扱いおよび安全管理を理解し、患者と家族に対する看護を実践できるための基礎的知識を教授する。
		クリティカルケア看護学	准教授 大田 博 教 授 緒方久美子 准教授 坂梨 左織 講 師 牧 香里	1・前 2	必修	クリティカル状況にある患者の回復に向けチーム医療に基づくケアとケアが融合した介入、人間関係論や家族看護論に基づく患者・家族への援助的な関わりを学ぶ。ゼミ形式によるプレゼンテーション、ディスカッションを含めて講義を行う。
		クリティカルケア 看 護 学 演 習 I	教 授 緒方久美子 准教授 大田 博 講 師 牧 香里 講 師 松本祐佳里 非常勤講師 岡林 志穂 非常勤講師 吉里 孝子	1・前 2	必修	クリティカル状況における個人の選択と意思決定の問題を扱い、事例検討を通して倫理的問題を解決するための実践力を養う。事例検討は担当者のプレゼンテーションと討議を中心に展開する。
		クリティカルケア 看 護 学 演 習 II	准教授 大田 博 教 授 緒方久美子 非常勤講師 岡林 志穂 非常勤講師 内藤 綾	1・後 2	必修	クリティカル状況にある患者の全人的苦痛を緩和・軽減するためのケア・処置の理論、原理、方法、効果判定に関する知識と技能について、講義・事例検討・文献レビュー・演習を通して専門性を理解し実践力を養う。
		クリティカルケア 看 護 学 演 習 III	教 授 緒方久美子 准教授 大田 博 講 師 牧 香里 非常勤講師 内藤 綾	1・後 2	必修	救命・救急におけるクリティカル状況にある患者と家族への看護を、看護の概念や理論、各方面の最新のガイドラインを活用して事例検討を行い、EBPに基づく実践力を養う。文献レビューと実践報告を行い、ゼミ形式で討議する。
		クリティカルケア 看 護 学 実 習 I	教 授 緒方久美子 准教授 大田 博	1・後 2	必修	急性・重症患者看護専門看護師の活動を見学、参画し、専門看護師の6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)について体験することにより、専門看護師としての役割を担う基礎的能力を養う。

		科目名	担当者	学年・期別 単位	必修 区分	授業概要
専 門 科 目	ク リ テ ィ カ ル ケ ア 看 護 学 実 習 領 域	クリティカルケア 看護学実習Ⅱ	准教授 大田 博 教 授 緒方久美子 教 授 石倉 宏恭	1・後 2	必修	救命救急医のもとで、救命救急や重症集中治療に必要な検査とその方法、確定診断までの過程、実際の治療とその対応の過程について、見学・体験により臨床看護判断の基礎となる専門的知識を養う。また、診断・治療過程における患者・家族の体験を理解し、看護の立場からの臨床看護判断、全身管理、治療の遂行に必要な援助について考える基礎的能力を養う。
		クリティカルケア 看護学実習Ⅲ	教 授 緒方久美子 准教授 大田 博 講 師 牧 香里	2・通 3	必修	集中治療を要する周手術期患者とその家族に対して、クリティカル期・ポストクリティカル期・急性期リハビリテーションケアを含めて、専門的知識に基づく確かな臨床看護判断と適切な看護技術を用いて高度な看護を実践する能力を養う。
		クリティカルケア 看護学実習Ⅳ	准教授 大田 博 教 授 緒方久美子	2・通 3	必修	救命救急看護を受ける患者とその家族に対して、クリティカル期・ポストクリティカル期・急性期リハビリテーションケアを含めて専門的知識に基づく確かな臨床看護判断と適切な看護技術を用いて高度な看護を実践する能力を養う。
研 究 科 目		課 題 研 究	教 授 緒方久美子	2・通 2	必修	クリティカルケア看護学、クリティカルケア看護学演習等で学修した内容をふまえ、クリティカルケア看護実践を通して急性・重症患者とその家族に関する特定の課題を見出し、研究のプロセスに沿って文献検討と調査を行い、臨床現場に寄与する知見として論文にまとめる。

3) 研究指導教員一覧

科目名	指導教員	内線番号 アカウント
課題研究	教 授 緒方久美子	4373 kuogata

* 福岡大学医学部 代表電話番号 (092) 801-1011

メールアドレスは、アカウント@adm.fukuoka-u.ac.jp になります。